

「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画（案）」に関する
パブリックコメントの実施結果について

1 概要

本市では、令和6年4月に策定した「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」を踏まえ、次の100年を見据えた量子技術等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する新たな拠点形成を実現するため、必要機能の導入による機能更新に向けて、「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」（案）を取りまとめ、広く市民の皆様から御意見を募集するため、パブリックコメントを実施しました。

その結果、パブリックコメント手続きでは、76通（251件）の御意見をいただきましたので、御意見等の内容とそれに対する本市の考え方を次のとおり公表します。

2 意見募集の概要

題 名	「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画（案）」に関する意見募集について
意見の募集期間	令和7年1月27日（月）から令和7年2月25日（火）まで
意見の提出方法	意見提出フォーム、FAX、郵送、持参
募集の周知方法	・市ホームページ ・かわさき情報プラザ（市役所本庁舎2階） ・各区役所・支所及び出張所の閲覧コーナー、各市民館、各図書館 ・市政だより（2月1日号） ・経済労働局イノベーション推進部（市役所本庁舎9階）
結果の公表方法	・市ホームページ ・かわさき情報プラザ（市役所本庁舎2階） ・各区役所・支所及び出張所の閲覧コーナー、各市民館、各図書館 ・経済労働局イノベーション推進部（市役所本庁舎9階）

3 結果の概要

意見提出数（意見総数）		76 通 （251 件）
内訳	電子メール	75 通 （242 件）
	F A X	0 通 （ 0 件）
	郵送	0 通 （ 0 件）
	持参	1 通 （ 9 件）

4 意見の内容と対応

今回のパブリックコメントの手続きでは、量子イノベーションパークの実現に向けた取組の推進を求める意見や、エコシステム実現に向けた拠点間連携に関する意見、導入機能に関する要望などが寄せられました。

寄せられた意見が、案に沿ったもの、今後の取組を進めていく上で参考とさせていただくもの、案に対する質問・要望などであったことから、用字や図表の所要の整備を行った上で、「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」を策定いたしました。

【意見に対する対応区分】

A：御意見を踏まえ、案に反映したもの

B：御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見の趣旨を踏まえ、取組を推進するもの

C：今後の取組を進めていく上で参考とするもの

D：案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明・確認するもの

E：その他

【意見の件数と対応区分】

項目	A	B	C	D	E	計
(1) 基本計画全般に関すること	0	26	1	3	0	30
(2) 基本方針（量子イノベーションパーク、イノベーション・エコシステム含む）に関すること	0	16	27	9	0	52
(3) 土地利用・整備の方針に関すること	0	0	4	6	0	10
(4) 導入機能の整理に関すること	0	62	14	47	0	123
(5) 施設計画、運営方針に関すること	0	12	6	12	0	30
(6) その他	0	0	0	0	6	6
合計	0	116	52	77	6	251

5 具体的な意見の内容と市の考え方

(1) 基本計画全般に関すること (30件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画案に全面的に賛同いたします。早期の計画実現を心待ちにしている。 (同趣旨他6件)	新川崎・創造のもりを、量子技術等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する世界最高水準の研究開発拠点へと成長、発展させる機能更新に向けて、慶應義塾をはじめとする関係者と連携・協力しながら、着実な事業推進を目指してまいります。	B
2	本計画が川崎市の持つポテンシャルを最大限に引き出し、内外から注目される「未来の新技术の拠点都市」として、イノベーションと創造の息吹に満ちた最先端の拠点へと進化することを期待している。 (同趣旨他5件)		B
3	今後、世の中の大変革の基盤となる量子コンピューターや、日本として特に強化している半導体分野に重点を置き、ラボスペースをさらに拡大されるだけでなく、国際的な共創の拠点となるべく、レストランやカフェ、宿泊施設を準備されようとしている点はとても先進的で、ものづくりに関する川崎市の強みを活かした戦略だと思う。 (同趣旨他1件)		B
4	川崎市民として、最先端の研究開発拠点が設立されることを誇りに思う。ぜひ、質の高い拠点に成長してほしいと願う。		B
5	関連企業が集積し新たなイノベーションも期待できることから政策としては非常に良いと思う。		B

6	昨年時の構想からより一層配慮が行き届いた素晴らしい構想であると感じており、レベルの高い研究をされる企業、大学等の方々と一緒にこの施設に入居できることをとても誇りに感じている。		B
7	本計画は、川崎市の経済活性化や産業競争力の向上に貢献するだけでなく、市がこれまで推進してきた先端産業振興、環境政策とも一貫しており、市の持続的発展にとって不可欠な取組だと考える。 また、市民、企業、研究者が一体となって、持続可能で活力ある地域社会の実現を目指す本計画は、川崎市が未来志向のイノベーション拠点として成長するための重要なステップとなると確信している。		B
8	新たな施設の整備にあたっては、地域の関係者や利用者の声を適切に反映し、どのようなメリット、デメリットがあるのかなど開かれた形で議論を進めることを強く希望する。 (同趣旨他1件)	本計画の策定にあたっては、地元である日吉地区の町内会をはじめ、幸区内の町内会や新川崎地区の就業者、さいわいふるさと公園を管理されているボランティア団体等、地域の皆様へ説明を行い、伺ったご意見を踏まえて取りまとめたものでございます。 今後も計画の進捗に合わせて、新川崎・創造のものの機能更新による効果や影響等を、町内会や地域の活動団体等を通じて、地域住民や関係者、利用者の皆様へ丁寧に説明を行いながら取組を進めてまいります。	D
9	イノベーション・エコシステムの図に下野毛地区が示されているが、全体の計画は川崎区・幸区・中原区で完結するようにも見える。最近の川崎市の科学に関する取組は臨海部が中心となるため、北部や中部からするとやや他人事のように感じている。 高津区、多摩区、宮前区、麻生区などの教育機関や市民にも情報を届け、事業の成果を広くPRしていただければと思う。	世界最先端の研究開発、イノベーション創出の拠点として、この地で行われる取組とその成果を市域の南部だけではなく、北部、中部の子どもたちや市民にも積極的に発信し、認知度の向上、シビックプライドの醸成につなげてまいります。	C

10	壮大な計画であり、遅延も予想される。粘り強く推進していただきたい。	量子技術の実用化に向けては、長い時間を要すると見込まれていることから、量子技術に加えて、AIや半導体等の最先端コンピューティング技術分野やこれらと関連する技術・産業の「知」と「人材」が集積するイノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。	B
11	研究開発は短期間で成果が出づらい。川崎市には短期的な成果を求めるのではなく、中長期的な視点でゴール設定をしてほしい。	研究開発の促進やオープンイノベーションの活性化、次世代人材の育成等において、大学の果たす役割が重要となることから、慶應義塾大学を中心に多様な大学や企業、研究機関との連携を図りながら、イノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。	B
12	慶應義塾大学は長年イノベーション創出に向けた取組を行っており、引き続き慶應義塾大学との連携強化を希望する。	慶應義塾大学をはじめとする、多様な大学や企業、研究機関等が立地することにより、新川崎・創造のもりが、最先端の「知」と「人材」の集積と輩出を生み出すエコシステムのエンジンとなるような拠点形成に取り組んでまいります。	B
13	教育研究機関が充実することで、新川崎が活性化することは大歓迎である。	今回の機能更新において、地域に開かれた新川崎・創造のもののエンタランスにふさわしい賑わいと憩いの空間形成を図ってまいります。	B
14	当該ブロックは自然豊かではあるが賑わい（特に夜間）の面では魅力に乏しいと感じておりましたので、今回の再開発計画を好意的に見ている。	量子技術やAI、先端半導体等の研究開発を行うためには、世界トップレベルの人材（研究者・技術者）の誘引が不可欠であることから、新川崎・創造のものの機能更新においては、国内外から高度人材を呼び込む機能を導入した拠点の形成を目指しています。	B
15	川崎市域は次世代人材、高度人材の集積地として特化した方がよいと思う。	本計画では、カフェ・レストラン等の商業機能の導入やさいわいふるさと公園との一体的な緑豊かな空間の形成など、地域に開かれた機能の導入により、地域住民が気軽に利用・来訪できるエリアの形成を目指してまいります。	B
16	さらに地域住民も利用できることにより、新川崎が新しい拠点として世の中に知られることにもなると思う。		

17	本計画のパブリックコメント募集が実施されていることは、地域住民に十分に周知されているとは言えない。意見募集期間も1か月間と短く、地域住民の意見を本気で聞こうとしているのか疑問である。新施設は、規模が非常に大きく、長い期間使用されるものと考えられるため、地域への影響は将来にわたって甚大である。市は、これ以上計画を進める前に、現時点で詳細な計画内容を地域住民に説明する場を設け、意見を聴取することが必要と考える。	本計画（案）の公表後、地元である日吉地区の町内会をはじめ、幸区内の町内会や新川崎地区の就業者、さいわいふるさと公園を管理されているボランティア団体等、地域の皆様へ説明を行ってしました。 また、本計画（案）に先立ち令和6年4月に公表した「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」の策定段階においても同様に地域住民の皆様へ説明・意見交換を行いました。 今後も、事業の進捗に合わせて、地域の皆様への説明、意見聴取を丁寧に行いながら取組を進めてまいります。	D
----	--	---	---

(2) 基本方針（量子イノベーションパーク、イノベーション・エコシステム含む）に関すること（52件）

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	量子コンピューティング分野とキングスカイフロントのライフサイエンス分野は親和性が高いため、計画に記載されている「イノベーション・エコシステム」が実現することを期待している。 （同趣旨他2件）	量子イノベーションパークの中核である新川崎・創造のもりと、ライフサイエンス分野の企業等が集積するキングスカイフロントやクライメートテック分野の産業集積を目指す南渡田地区等との、量子コンピューティング技術の活用による連携を通じ、創薬や診断技術等の開発の加速化や、新素材、次世代バッテリーなど革新的な技術・製品開発につなげる「イノベーション・エコシステム」の実現を目指した取組を進めてまいります。	B
2	新川崎・創造のもりに関しては、量子イノベーション等の先端技術の研究拠点やスタートアップ企業の集積というイメージが強く、ものづくりを担う市内中小企業から見ると敷居が高く感じられるところがある。 もう少し市内の中小企業が、身近に感じることができるPRや催しを検討していただけると交流を深めてアウトプットに繋げることができるのではないかと考える。	市内には高度な技術を有し、量子コンピューターを構成する部材の開発・製造を担う中小企業も立地していることから、量子イノベーションパークの取組は本市産業の活性化や市内企業の一層の技術力向上につながるものと考えています。今後は、サプライチェーンの構築に向けて、市内ものづくり企業が有する技術など幅広い産業との連携が一層重要となりますので、市内企業との交流・連携を活性化し、量子技術分野等への参画促進に取り組んでまいります。	C

3	川崎市内で実証実験を行う際にワンストップでのコーディネーションや必要な申請を行える機能があるとたいへん助かる。 市街地を使った実証実験を行える環境がなかなか無いため、迅速な検証ができる環境があると事業化への時間短縮になりありがたい。市民や関係者へのプロモーション面でのサポートや、市民、地域企業等のステークホルダーからのフィードバックが受けられると実証実験がやりやすくなる。 (同趣旨他 2 件)	本市が目指す「量子イノベーションパーク」は、量子技術を核としたイノベーションの創出に向けた多様な研究・実証・教育プロジェクトが、新川崎・創造のもりを中核として、様々な企業・研究機関等において市内全域で展開するものです。 本市においても、量子技術の活用事例を創出し、量子技術分野への企業の参画促進と、量子技術に対する理解と興味・関心、期待感を醸成するため、様々な企業・大学等と連携し、市内をフィールドとした量子技術の実証に取り組んでまいります。	C
4	近年、生成 AI 技術が注目されるなか、量子コンピューティング技術を本格導入した当該施設が世界的な先進事例として、また地域のシンボルとして大いに発展していくことを期待する。 (同趣旨他 1 件)	新川崎・創造のもりを、量子・AI・半導体等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する世界最高水準の研究開発拠点へと成長、発展させる機能更新に向けて取組を進めてまいります。	B
5	新しい建物になり新しい仲間が増え、地域が活性化することは周辺企業にとって良いことである。スタートアップ企業と共にビジネスを行っているので、イノベーションを起こすことができる人・企業が集まりともに成長できることを期待している。 (同趣旨他 1 件)	スタートアップや大企業、中小企業、大学、研究機関など多種多様なプレイヤーが積極的に集い、交流し、アイデアをぶつけ合うことでイノベーションが生み出されることを期待しています。	B

6	イノベーション拠点として、スタートアップが成長しやすい環境を整えることが重要。量子技術や AI 分野のスタートアップが成長できるよう、投資家とのネットワーキング機会を提供し、また、外国人研究者やエンジニアが働きやすい環境を整備することで、海外企業の進出を促進することができる。「新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなるイノベーション・エコシステムの姿」は、既存の施設を最大限に有効活用したエコシステムの提案でありとても素晴らしいと思う。このエコシステムを実現するためには、スタートアップ入居が重要であり、入居スペースの 5 割ぐらいは確保する必要があるのではないと思う。 (同趣旨他 1 件)	研究の加速化や成果の実用化の視点から、大企業や中小企業、スタートアップ、大学など多様な主体が集い、交流・連携しやすい環境を整備することが必要と考えております。 先端的な研究開発成果の社会実装には、スタートアップの役割が重要であることから、スタートアップの入居スペースの確保に向けて検討してまいります。	C
7	AI と共に注目される量子コンピューターの世界的拠点を川崎に作ることができれば、市はもちろん、日本の産業にも大きく貢献できる可能性があることから、本プロジェクトについては市政の最優先課題の一つとして取り組んでいただきたい。 (同趣旨他 1 件)	新川崎・創造のもりを、次の 100 年を見据えた我が国の成長をけん引する拠点として発展・成長させるため、量子・AI・半導体等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する世界最高水準の研究開発拠点へと成長、発展させる機能更新に向けて取り組んでまいります。	B
8	量子技術を中心に据えつつも、AI や半導体など、他の先端技術に関してもイノベーションを起こせるような知の集結の場となるような施設の計画が望まれる。		B
9	市全体で量子イノベーションパークの形成を目指す中で、当該施設はその中核拠点として大きな役割とポテンシャルを有するだろう。	新川崎・創造のもり地区が世界の他の拠点と比較しても高い優位性を持つ量子コンピューティング技術を活かし、同地区を中核とする市内全域での量子分野におけるイノベーションの創出を図る「量子イノベーションパーク」の取組を推進してまいります。	B

10	量子技術と環境、エネルギー、ライフサイエンス分野の既存産業基盤との融合により、新たなイノベーションが生まれることが期待される。	新川崎・創造のもりの機能更新においては、核となる量子技術に加え、AI・半導体等の最先端コンピューティング技術の集積地を目指しておりますが、こうした技術を活かして、エネルギー分野やライフサイエンス分野、カーボンニュートラルといった幅広い分野への応用が考えられます。 量子技術を核として多様な技術領域との融合を生み出し、オープンイノベーションの活性化に取り組んでまいります。	B
11	アカデミアとの連携促進に期待している。大学研究者が集まる場としても機能できれば、量子に限らず多分野の研究者の集積となることは波及的展開可能性も開けてくる。	新川崎・創造のもりの機能更新においては、慶應義塾大学に加え、多様な大学や企業、研究機関が集い、連携を促進する拠点形成を目指しています。そのため、先端企業・大学等が集積し、研究開発を加速する良好な研究環境を構築するとともに、オープンイノベーションを活性化させる交流・コミュニティ機能の充実に向けて取り組んでまいります。	C
12	新川崎・創造のもり周辺や川崎市内には、慶應義塾大学矢上キャンパス、大手製造企業・先進企業だけでなく、電力・交通インフラ設備が集積しており、量子イノベーションパークなどの研究開発を促進する機能を整備するにあたって創造のもりは非常に魅力的な地区である。当該地区における研究開発を促進する機能の政策等は非常に理にかなっている。	K² ウンキャンパス開設以降、新川崎地区は、研究開発企業やものづくり企業の立地が進み、本市を代表する産業集積地へと発展し、住宅や交通インフラの整備も大幅に進展してきました。 こうした新川崎地区のポテンシャルを活かして、新川崎・創造のもりを世界最高水準の研究開発拠点へと発展・成長させるため、当地区の機能更新に取り組んでまいります。	B
13	量子技術の活用ユースケースのショーケース、活用相談、POC 等ができると、量子に関わる全ての相談や問い合わせが川崎に集積することになり、産業発展力やコミュニティの強化に繋がると思う。	新川崎・創造のもりを中核として市内全域で、様々な企業・研究機関等において量子技術を核としたイノベーションの創出に向けた研究・実証・教育プロジェクトが展開される「量子イノベーションパーク」の実現に向けて取組を進めてまいります。	C

14	半導体人材や量子人材の育成の場をぜひご検討いただきたい。量子コンピューティングのプログラミング言語やミニマルファブなどを用いながら学習できると国内外から優秀な人材が集まると思う。東京でもそのような拠点は無いので、川崎が日本一の量子・半導体拠点になり得ると思う。	国内における半導体分野や量子分野の人材は不足しており、人材育成が課題となっています。こうしたことから、本市においては、量子産業の将来の担い手である若年層を中心に量子技術の人材育成に取り組んでおりますが、半導体分野の人材育成につきましても、いただいた御意見を今後の取組の参考とさせていただきます。	C
15	日本の重要な産業である製薬業と材料分野では、AI創薬やマテリアルズインフォマティクスをはじめとするデータ駆動型科学が大きく貢献している。次世代の計算基盤である量子コンピューターの存在は、川崎市が日本経済を牽引する可能性を示唆しているといえる。昨今、データ駆動型科学ではAI・計算科学と自動実験の両立が当然とされ、HPCやロボティクスへの需要が今後も高まると予想される。これは、化学者や生物学者、AIエンジニアだけでなく、ハード面を担う人々の協力が不可欠であることを意味する。学術や企業だけでは、このマッチングは極めて難しいが、本計画案では市内企業の参画例が明確に示されている。市内企業では後継者不足で消えていく技術も多いため、市内企業の活性化ならび後継者不足によって失われそうな技術を活用・保全するうえでも、こうした取り組みをさらに継続・拡充していただきたい。	量子イノベーションパークの実現に向けて、量子と古典の融合技術やソフトウェア、通信、センシング、セキュリティ分野など関連産業の早期の社会実装化を意識した拠点形成に向けて取り組むことから、市内のものづくり企業が有する技術など幅広い産業との連携が重要と考えております。 また、市内企業とのマッチングの活性化に向けて、企業、大学、研究機関など多種多様なプレイヤーが集い、異分野の研究者・技術者が出会う仕掛けづくりや交流・コミュニティ環境の構築に向けて取り組んでまいります。	C

16	量子コンピューター「KAWASAKI」は今後川崎市の行政課題解決に向けたユースケース考察と解決手法の構築に向けた大きな一助となる。その実現のため、現在川崎市が有する研究員（直接的／間接的）を機能集約し「川崎市量子イノベーション研究所：仮称」として新しい施設に研究所を開設する。川崎市が量子関連の先端研究所を所有することによって、川崎市のブランドイメージが大きく向上し、高度技術人材の集約拠点を狙った構想がより進みやすくなるのではないかと考える。	新川崎・創造のもりを中核とした「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組や、市内における量子技術の活用事例を広く発信することで、本市の取組の認知度の向上と期待感の醸成につなげ、量子技術分野への参画促進、新川崎・創造のもりへの企業集積等を図ってまいります。	D
17	量子技術の最先端研究の集積地となるためにも、IBMQに加えて他ベンダーの量子コンピューターもこの地で稼働すると良いと思う。	量子イノベーションパークの実現に向けて、その中核となる新川崎・創造のもりに国内外から量子技術分野の多様な企業、大学、研究機関等を誘致し、世界の量子イノベーションを先導する拠点形成に取り組んでまいります。	C
18	私は量子技術等の最先端コンピューティング分野の専門家であり、多くの講演を行っている。その際にいただくお声として、「量子技術等の最先端コンピューティング分野」は難しそうだということで「食わず嫌い」の状態になっていることが多々あるように見受けられる。そのため、様々な方々が集え、気軽に技術相談・ビジネス相談等を行える場作りになることを期待している。	量子コンピューティング技術の本格的な実用化までには解決すべき課題が多くあると言われておりますが、こうした先端技術分野では日進月歩で研究開発が進展しておりますので、先端的な科学技術・研究活動の見える化や企業向けセミナーなど積極的な情報発信に取り組んでまいります。 また、量子と古典の融合技術やソフトウェア、通信、センシング、セキュリティ等の分野など関連産業の社会実装を意識した拠点の形成に取り組むとともに、市内企業との連携を促進する交流・コミュニティ機能の導入についても検討してまいります。	C

19	施設で活動する企業について、川崎市が進める量子イノベーションパーク構想を基に、少なくとも5割は、量子研究開発関係を対象とすべき。量子コンピューターを有する企業に、機能更新後の施設入居者向けに、利用時間枠を確保していただければ、イノベーションが大いに進むことが期待できる。 量子コンピューターを開発している企業は、多くの人に利用してもらいたいはずである。利用する側は、金融をはじめ交通、素材・薬開発など多岐の分野にわたるユーザーが事実いる。両社、ウインウインの関係にあると感じている。量子コンピューター利用の一定時間解放が、本施設の目玉となり、利用を望む企業が入居してくることになると思う。	現在、新川崎・創造のもりにおいて稼働する量子コンピューターは、IBM が設置し、東京大学が占有使用权を有して企業、大学、研究機関等と量子コンピューターの利活用に関する共同研究を行っているものでございます。 量子コンピューターの利用環境の構築については、いただいた御意見を今後の取組の参考とさせていただきます。	C
20	新設施設は 50 年程度以上使用されると推定されるが、その間、現在のような状況が継続するかどうかは不透明である。現在は多く新規設立されているベンチャー企業や、次世代コンピューターとして期待されている量子コンピューターも、20 年程度後の時点では社会環境が変化している可能性があり、活況が継続している保証はない。万一、ブームが去った後、新設施設は、利用率の低い無機質で空疎な施設となり、地域の不活性化や衰退につながることを懸念される。	社会が期待する性能を持った量子コンピューティング技術の実用化には乗り越えるべき様々な技術的課題があると言われており、本格的な実用化までは時間を要すると考えられており、長期的な視点で取組を進めていく必要があると考えております。 また、本施設においても、将来の変化の大きさや不確実性等を見据え、その時代の社会環境や技術開発のトレンド、企業等のニーズに合わせて機能や規模を適切に変化させられるような柔軟な設計・運営を目指してまいります。	D
21	エコシステム形成にあたり、まず入り口となるイノベーション技術の始まりをいかに広く集め、拡充していくが、イノベーション・エコシステム形成について重要なポイントになると考えている。	本市におけるイノベーション・エコシステムの形成に向けて、令和7年度に、新川崎・創造のもりをはじめ、キングスカイフロント、南渡田地区等の本市の研究開発拠点・産業拠点等が有機的に連	C

22	新施設での目的達成のため「エコシステムの構築と連携」を促進する新たな仕組みが必要と考える。その企画・検討・構築に向けた予算確保が必要と考える。最初の1年は企画立案作業となるが専門の人員が必要となるだろう。	携・融合したネットワークを構築する「川崎版イノベーション・エコシステム」のしくみづくりなどについて検討してまいります。	C
23	機能更新後の研究スペースを大学、スタートアップ、大企業に分類する。主要大学の産学連携室との連携が重要で、特に量子関係の研究が盛んな東大、京大、大阪大学、東工大、横浜国大、慶応などの大学と連携する。 スタートアップ向けには、川崎市での包括的なエコシステムに沿って成長していただく企業を想定し、活性化のために、入居期間の制限を設ける方が好ましい。卒業後は、エコシステムの流れに乗り、「下野毛・黒川地区」「殿町地区」「南渡田」へ移転、より成長していただく。川崎市のエコシステム実現の中核をなす。大企業向けには、市の方針に沿った企業を選定し、入居活動を行う。大規模なプロジェクトを進める力のある企業・関心のある企業を探し選び、誘致していく。 これらの企業の入居により、施設内で新たなプロジェクトが生まれる確率も高まる。入居企業をみて、協業のために外部から入居してくる企業も生まれると思う。	研究開発の促進やオープンイノベーションの活性化等において、大学の果たす役割が重要となることから、慶應義塾大学を中心に多様な大学や企業、研究機関との連携を図りながら、イノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。 また、整備事業者等と本市が連携し、量子イノベーションパークの実現や新たなイノベーションの創出、エコシステム形成につながる企業・プロジェクト等の誘致活動に取り組んでまいります。	C

24	自然科学における基礎研究の重要性は言うまでもないが、科学技術の社会還元の意義や重要性も極めて高まっている。本計画案では「イノベーション・エコシステムの姿」として、最新技術の社会実装における循環イメージが分かりやすく提示されている。これは複数の開発拠点によるコラボレーションであり、相乗効果が期待されるように感じた。ただし、循環させ続けることが日本の大きな課題でもあり、川崎市独自の取組として、この点をどのように解消されるのかをもう一步深く計画の記載をいただきたい。	本市では、各拠点が持つ価値、強みを活かした、最先端技術とスタートアップのイノベーション・エコシステムの形成を目指しています。企業の成長の成果・資産を次世代の人材・スタートアップの輩出へと還流させ、次々とイノベーションを生み出す持続可能なエコシステムの実現に向けて取組を進めてまいります。	D
25	新川崎・創造のもりとキングスカイフロントの研究者同士が活発に交流できる仕掛けとして、コワーキングスペースなどの利用についても連携が図られるとよいのではと思う。	キングスカイフロントや南渡田地区等の研究開発拠点との連携を活性化させる仕掛けの一つとして、コワーキングスペースやオープンファクトリーの利用を通じて、立地する企業、大学、研究機関など多様な主体による交流を促進し、新川崎・創造のもりのイノベーション拠点としての機能強化に向けた取組を進めてまいります。	C
26	今後の検討においては、各拠点間の連携をどのように具体化するのか、また、新施設の運営にあたり地域との調和をどう図るのかといった点について、引き続き丁寧な議論と情報提供をお願いしたい。	イノベーション・エコシステムの形成に向けた拠点間連携を活性化させる取組については、様々なステークホルダーの意見を伺いながら検討を深めてまいります。また、新たな施設においては、地域に開かれた緑地空間の整備や、カフェ、レストラン等の商業機能の導入など、就業者だけでなく、地域住民や来訪者の利便性を高め、地域との調和に配慮した施設運営に向けて、継続して周辺住民に対して情報提供・説明の機会を設けながら取組を進めてまいります。	D

27	「新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなるイノベーション・エコシステムの姿」は、既存の施設を有効活用しているが、今からでも連携できるはずであるがうまくできていないと感じている。 K-NIC、キングスカイフロント、南渡田地区、下野毛・黒川地区との定期的な連絡会、もしくは機能更新後の施設に出先を設けるなどの、交流が必須と考える。将来的には、量子通信で回線を結ぶことが出来ればトピックスとなるのではないかと思う。	本市にはキングスカイフロントや南渡田地区等の研究開発拠点、研究開発型の産業集積の特徴があることから、こうした強みを活かして、市内に立地する大企業やスタートアップ、大学、研究機関など多様な主体による連携を促進し、新川崎・創造のもりのイノベーション拠点としての機能強化に向けた取組を進めてまいります。	C
28	複雑な技術体系・エコシステムの上になりたつ先端 IT 技術は 10 年以上先を見た継続的な投資が必要であり、今後も長期的な視点での政策をお願いしたい。	量子技術等の先端 IT 技術の実用化・社会実装に向けては、長い時間を要すると見込まれていることから、長期的な視点で、量子技術に加えて、AI や半導体等の最先端コンピューティング技術分野やこれらと関連する技術・産業の「知」と「人材」が集積するイノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。	C
29	先進事例の整理などで他機関の実績が紹介されておりますが、川崎市内にある研究拠点に関する記述は p32 に限られている。本拠点は従来の拠点と異なる特徴を備えているものの、関係者が共創し研究開発を加速するという観点では大きく変わらないと考える。これまでの事業運営において生じた問題・課題とその対策を踏まえながら、継続される取り組みや新たに提案された施策の経緯を強調していただけると、機能更新における市の考えがより明確に伝わると考える。	本市の特徴として、かながわサイエンスパークやキングスカイフロント、南渡田地区など複数の研究開発拠点・産業拠点を有しており、市内には 550 以上の研究開発機関が集積し、市域全体でイノベーションを創出する基盤が整っています。 今後は、こうした拠点間連携の促進や市内に立地する企業等のネットワーク構築による相乗効果を生み出し、技術領域や成長段階に応じた支援を継続的に行っていくことが必要と考えております。	D

30	新川崎地区のスタートアップから大企業、そして地域住民の方々のエコシステムの中心地となる場所であることと、地域外の人にも新川崎がスタートアップインキュベーションの最先端を行く地域であること知ってもらえるような場所であってほしいと思う。	新川崎・創造のもりのかわさき新産業創造センターは、計 100 室、ラボ面積 8,100 m²の首都圏最大級のインキュベーション拠点として、多数の研究開発型のスタートアップが集積しております。 今回の機能更新によって、本市のイノベーション・エコシステムの成長のエンジンとなる新川崎・創造のもりについて、地域内外の方々に広く認知してもらえるよう、革新的な成果の創出と情報発信に取り組んでまいります。	C
----	---	--	---

31	新川崎・創造のもりが世界の量子イノベーションを先導するエコシステムとして大きく発展することを大変強く期待している。 その中で、将来的に様々な研究開発プロジェクトが集積され、様々な研究ニーズに対応可能な柔軟性を持つようになると考えているが、拠点整備段階から配慮すべき点について検討をお願いしたい。 ■概要：量子技術においては、下記3点の設備導入を見越した拠点設計が重要と考えている。 1 「屋上の GPS アンテナならびに時刻同期信号の施設内配布」 2 「ヘリウム循環装置」 3 「クレーン搬入」 ■内容 1 「屋上の GPS アンテナならびに時刻同期信号の施設内配布」 量子技術を始めとする最先端技術、特にネットワークに関するものにおいては、昨今の高速通信に対応させるために、高精度の時刻同期が要求されるケースが多い。時刻同期に向けては GPS に搭載された原子時計由来の基準信号を活用することが多く、そのために GPS アンテナやクロックシステムが重要となる。特にアンテナについては障害物の無い屋上に標準的なサイズのアンテナを設置する必要があり、拠点設計の段階で考慮すべきである。またクロックシステム由来の時刻同期信号についても、施設内の希望者に提供可能なサービスを展開できるよう、施設建築段階からあらかじめ、高周波対応の電気配線の導入が望ましい。 2 「ヘリウム循環装置」 量子コンピューターの多くの方式においては極低温が要求される。	いただいた御意見については、今後の施設整備の参考とさせていただきます。	C
----	---	--	---

その実装のためには液体ヘリウムが使われることが多く、貴重かつ高額な資源であるため、再利用するための設備として再液化・再凝縮のための部屋を確保する必要がある。MRI 装置でもよく使われるものであり、ガス回収配線などやヘリウム容器接続用施設を、施設建築段階からあらかじめ導入することが望ましい。 3 「クレーン搬入」 量子技術の研究開発においては、力学的な安定性の要求にこたえるために、除振台や光学テーブルを用いるケースが多い。本体重量としては、例えば幅 2 m・奥行 1 m・高さ 0.8 m（高さ 0.4 m の架台を含む）の場合、500 kg にも及ぶ。床の耐荷重はもちろんのこと、このようなテーブルを搬入するための方法を予め検討する必要がある。例えば荷物用大型エレベータの導入や、外側から当該フロアまでクレーンで吊り上げての搬入などが考えられる。建物内部装置を導入するほど頻繁にアクセスが行われるものではないと当面考えられるため、コストのみを考えると、後者のクレーンによる搬入経路を確保するのが望ましいだろう（もちろん前者も魅力的である）。具体的にはクレーン車を停車するためのスペースと、解放可能なベランダやバルコニーとを、向きを合わせて設置する必要がある。また廊下についても過度に狭い廊下は適さない可能性が高い。 以上のような建築段階での設計は非常に重要であり、積極的な導入に至らなかったとしても、量子イノベーションパークの中心施設に向けては、検討の価値があるものと考えている。		
--	--	--

32	新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなる、持続可能なイノベーション・エコシステムの形成に向けた取組について、新たに研究機関やアカデミアが集積し、地域全体の発展が図られることを期待しており、誘致等を促進するための支援策の創設を期待している。	新川崎・創造のもりの機能更新において、量子イノベーションを先導する量子・AI・半導体等の先端技術領域の企業・プロジェクトや、これらの技術を活用し新たな技術・サービスを開発する素材・創薬等の企業を国内外から誘致し、早期にプレイヤーの集積を図ることは、イノベーション・エコシステムの形成において重要であると考えているため、企業等の立地誘導・投資促進制度について今後検討を進めてまいります。	B
33	VC/CVC にも入居いただけると、スタートアップと VC/CVC が常に情報交換でき、メリットもあるのではないかと思います。	最先端技術分野の早期の社会実装に向けた研究開発の推進や、スタートアップ企業等の新事業・新ビジネスの創出の後押しには、企業の成長過程に応じた資金調達が必要であることから、ベンチャーキャピタル等のスタートアップを支援するプレイヤーとの連携・交流の可能性についても検討してまいります。	C
34	KBIC 等のインキュベーション施設卒業後も定期的に川崎市のイベントに登壇してもらう等、継続的に川崎市と何かしらの縁を持ち続ける仕組みがあると良いと感じました。	KBIC では、インキュベーション施設を退去した企業と現在の入居企業をつなぐネットワークイベント等を定期的で開催しております。こうした仕組みを継続し、卒業企業の成功事例等の共有や企業間連携の促進に取り組んでまいります。	B
35	論文を出すだけでなく、社会実装を進めてほしい。その結果がわかるような形で発表してほしい。	新川崎・創造のもりでは、新川崎地区や市内の企業集積を活かした、産学連携や企業間連携による研究成果の社会実装に向けた取組を推進しています。機能更新においては、こうした取組をより一層活性化させるとともに、今後は、その成果の発信についても充実させてまいります。	C

36	量子技術に関しては、高校生や起業家などを対象にした取り組みが増えているものの、一般市民が参加できるイベントが少ない印象を受けている。年齢層によって教育形態のニーズが異なるため運営は容易ではないと思うが、先端技術や研究の価値を理解してもらうことは、家族や地域に伝播する効果もあるため、対象年齢や資格などが緩いイベント開催についても検討いただきたい。	最先端の企業、大学等の集積を活かして、次代を担う子どもたちが科学技術への夢を育む場など、多世代の人材を育成する機能が重要であると考えております。「科学と遊ぶ幸せな一日」や「Quantum Summer Camp」、「かわさきジュニアベンチャースクール」等、現在実施している人材育成の取組の更なる充実や、研究成果を来訪者に分かりやすく紹介する機能や、ラボでの研究活動の一部見える化など、子どもたちや市民が量子コンピューターなど最先端の科学技術に身近に触れ、学び、興味・関心を抱く環境づくりに努めてまいります。	C
37	様々なイノベーション拠点がある中、国内外の先端の量子関連技術のセミナーが聴けると、こちらのイノベーション拠点に入居する価値があると感じる。	新川崎・創造のもりでは、K2 オープンセミナーやエッジサロン、かわさき科学技術サロン、量子技術に関するセミナーなど、最先端技術に関するイベントを多数開催しておりますが、機能更新を通じて、こうした国内外の先端技術に関する情報発信の強化・充実を図ってまいります。	C

38	本計画案でインキュベータとして多くのスタートアップを誕生させることは、非常に意義深いと感じる。しかし、インキュベータ（孵卵器）という名称のとおり、現状でも稼働率が高いとのことなので、最終的にはスタートアップ企業が巣立っていくことが望ましい場合もあります。そうなれば、必ずしも川崎市内に定着するとは限らない。これは収益計画においてはネガティブである一方で、世界と渡り合う企業が川崎市から次々と生まれ、拠点としての評価が高まるポジティブな面もある。ただし、当然ながら市内で事業を継続していただく施策も必要。現状、市内への移転先として下野毛地区などが示されているが、想定される企業に対する助成制度の内容をより明確化することまでがエコシステムとしての拠点計画ではないか。	新たな施設においては、大学のほか、大企業、中小・スタートアップ企業など、様々な研究段階、規模、成長段階の企業等を受け入れられるバリエーションに富んだ面積のラボの整備を進め、かわさき新産業創造センター（KBIC）で成長したスタートアップ企業の市内定着につながる受け皿となるスペースについても検討してまいります。 また、新川崎・創造のもりへの企業集積を促進するため、入居企業に対する立地誘導・投資促進制度についても検討してまいります。	D
39	物流などで量子技術の活用性の期待が高まっている。産業横断型の量子活用とともに、異分野連携なども含めたコミュニティづくり、活用ノウハウ共有に期待している。	量子コンピューティング技術は、物流、材料開発、創薬、金融、製造など幅広い分野での活用が期待されておりますが、その社会実装に向けては、実社会で活用できるユースケースが不足しているため、実証のモデル事業を実施し活用事例を創出するとともに、共有により量子技術分野への企業参画を促進してまいります。	B
40	エコシステムの強化とも通じるが、特許事務所や税理士、金融会社、VC などの出先も入居すると、入居しているスタートアップのニーズもあり、ウインウインの関係が気付けると思う。税理士、金融会社は、地域の住民をも対象にすることにより、行政サービスも兼ねることができ、一石二鳥である。これらは1階に配置するとより利用が進むのではないかと思う。	新たな施設に入居する企業や機能、その配置については、令和7年度に選定する整備・運営事業者とともに今後検討してまいります。	D

41	全国連携、国際連携の関係性作りを是非ご検討していただきたい。本来、量子への取組は一自治体では到底取り組めないものなので、日本全体の発展に繋がると思う。	量子イノベーションパークの実現に向けて、国の「量子未来社会ビジョン」において位置付けられた全国の量子技術イノベーション拠点等、国内外の拠点・機関等と連携しながら取組を進めてまいります。	C
42	性急に利益のみを追求するのではなく、柔軟な制度設計を検討してほしい。市税を投入する以上、一定の採算性を求めることは理解できるが、企業が成功見込みの不確実性をはらむ以上、大企業の一部門では実施が難しいチャレンジこそスタートアップが担う意味があると考えます。ノーベル賞受賞研究を分析した研究でも、資金繰りを優先するあまり拙速なテーマに飛びつくことなく、長期的な視点で研究を続けていたことがわかっている。	量子技術の実用化に向けては、乗り越えるべき様々な技術的課題があると言われており、本格的な実用化までは時間を要すると考えられておりまので、長期的な視点で取組を進めていく必要があると考えております。	C
43	いくら良い環境があっても会費が高額であると参画することが難しくなるので、参画しやすい会費設定を望む。	研究の加速化や成果の実用化の視点から、大企業や中小企業、スタートアップ、大学など多様な主体が集い、交流・連携しやすい環境を整備することが必要と考えております。	D
44	ライフスタイルトランスフォーメーション（LX）については、世帯形成や国際競争力の面からも、若い研究者や海外人材の確保には環境整備が欠かせない。文部科学省が博士号取得者の伸び悩みや海外流出に対して新規事業を開始したが、首都圏の研究機関が労働者や家族のウェルビーイングを計画的に支援する例は多くないように思われる。他自治体に先駆けて川崎市がこの分野の改革を進め、広く発信することは、優秀な人材誘致に大きく貢献するのではないかと。	国内外から優れた人材を誘引する機能として、研究者とその家族が、研究と生活に快適に対応するための滞在環境の整備に取り組むとともに、教育環境の整備についても周辺エリアを含めて検討してまいります。	D

(3) 土地利用・整備の方針に関すること（10件）

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	新設のメインエントランス周辺について公園設備との一体感が増してとても素晴らしく感じた。創造のもりを一周できる自然歩道を作っていただけると更によいと思う。リフレッシュ目的としての利用や、米アップル社やメタ社の本社のようにウォーキングをしながらミーティングを行うことで従業員のクリエイティビティや生産性の向上が期待できると思う。 （同趣旨他1件）	隣接するさいわいふるさと公園の魅力等を活かしつつ、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成するとともに、創造のもり全体の回遊性を向上させるため、ウォークアブルな動線の設計・配置についても併せて検討いたします。	C
2	現在は研究施設エリアとふるさと公園は完全に分断されており、市民や子どもたちとの間には物理的にも心理的にも結界のようなものが形成されていると感じている。	機能更新にあたっては、K2 タウンキャンパスとさいわいふるさと公園について、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間の形成を目指し、エリア全体の回遊性向上を図ります。また、施設整備においては、研究成果を市民に分かりやすく紹介する機能の導入、研究活動の見える化など、市民や子どもたちが日常的に最先端の科学技術に触れ、学び、興味・関心を抱く環境づくりに努め、市民にとって心理的にも身近に感じられる場所へと発展させてまいります。	C
3	隣接するさいわい公園についても、合わせて整備することで、地域一帯が洗練された雰囲気となるかと考える。	現在のさいわいふるさと公園の魅力等を活かしながら、他の事例等を参考に、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間の形成を図ってまいります。	C

4	現在の K2 キャンパスの緑地とその隣のさいわいふるさと公園は、地域住民の散歩などの余暇利用や心身のリフレッシュに利用されており、地域にとってその存在は単なる研究施設以上の価値を発揮している。	地域住民や就業者がリフレッシュできる自然と調和した環境を充実させるため、さいわいふるさと公園と一体性のある緑地空間を形成するとともに、創造のもり全体の回遊性を向上し、散歩などにより心身のリフレッシュ・リラックスにつながる動線的设计・配置についても併せて検討いたします。	D
5	K2 タウンキャンパスの余剰地を活用した増築が、拡張性・柔軟性・可変性を備えた大空間ラボの確保や、経済安全保障に配慮したセキュリティ、交流空間の確保といった必要機能の充足に適さないという点については、より詳細な検証結果や代替案の検討も求められるのではないかと。	K2 タウンキャンパスの余剰地を活用した新たな機能導入に向けた検証においては、余剰地が細長い形状となり、大空間のラボ等の整備が困難であることや研究者が日常的に集う効果的な交流空間の設置には不向きであることが分かりました。さらに、隣接する集合住宅への日影への影響から高度利用が困難で、必要機能を十分に導入できないことから、既存施設を解体し、新たな施設の整備を行うことで機能更新の効果の最大化を図るものです。	D
6	既存施設の解体と新施設の整備によって、より高度なイノベーション拠点の形成や、地域に開かれた憩いの空間の創出が可能になる点は期待できる。ただし、解体・再開発による影響やコスト、既存の研究活動や地域住民への影響を十分に考慮し、計画を進めていただきたい。	新川崎・創造のもりの機能更新による効果や影響等について、今後も計画の進捗に合わせて町内会や地域の活動団体等を通じて、地域住民や関係者、利用者の皆様へ丁寧に説明を行いながら取組を進めてまいります。	D

7	現在の K2 キャンパス施設は建設から 25 年になるが、改装すれば十分に使用継続が可能であり、近年重要視されている SDGs にまったく逆行している。民間では、マンションなどの住宅をはじめとして、建設から 40 年から 50 年間、使用を継続している施設が多数ある。本当に最新鋭の施設が必要であれば、現在の K2 キャンパス施設は有効に利用しつつ、殿町などの新規に開発している地区に新設すべきである。	現在の K2 タウンキャンパスは、当初 10 年間の暫定的な土地利用計画のもとで建設されたため、現状では容積率をはじめとする敷地のポテンシャルを十分に活かし切れておらず、また、研究環境・インフラの老朽化、拡張性や交流促進機能の不足等、世界をリードする研究開発拠点へと発展するための機能を充足していないといった課題を有しています。こうしたことから、既存施設を解体し、新たな施設の整備を行うことで機能更新の効果の最大化を図るものです。	D
8	本計画に反対する。現在の K2 キャンパスは広い敷地に 5 つの施設が配置されていて、緑豊かな静かな環境下で空間的な余裕と開放感を有する、他の研究施設とは一線を画す独自性の高い施設である。慶應義塾大学大学院の研究施設として、自由な発想で全く新しい着想を生むためには現在の施設のような環境が適切であり、そうした考え方のもとに現在の K2 キャンパスは設置されたものと考えられる。新設計画の施設は無機質で空疎であり、施設としてありきたりな研究環境であって、他地域の設備との差別化ができない。	新川崎・創造のもりの機能更新においては、大学の研究開発成果・技術シーズの社会実装、事業化を加速する良好な研究環境を整備するとともに、隣接する公園と一体性があり、地域住民にも開放的で緑豊かな憩いの空間が形成された、他の拠点にはない魅力的な環境を整備してまいります。	D

9	研究施設エリアと公園との境界を感じさせないボーダレスな空間の形成を図る計画は好感が持てるが、この内容で果たして長年に渡り形成された結界を超えられるか疑問を感じた。川崎市は公園計画にコストをかけないスタイルがあり、市民の公園計画への期待とは大きなズレを感じている。市長は「賑わいを形成したい」とのコメントをあちこちでされていますが、実際に賑わっている「大和市ゆとりの森」、「横須賀市ソレイユの丘」などを視察したことや参考にされたことはあるのだろうか。いずれも最新の大型複合遊具など設備に十分なコストをかけて整備し大きな賑わいを創出している。市民を優遇しつつ市外の訪問者からは駐車料金や入場料なども徴収してマネタイズ化、収益化にも見事に成功しているように見える。ここであれば先進的な研究整備に合わせて先進的な遊具も併せて設置・用意すれば、マスコミなどにも取り上げられて川崎市の大きなイメージアップにも繋がるのではないかと（先進的な研究整備だけではどこにでもあるので大した話題にもならないかと思う。） 近隣の夢見ヶ崎動物公園の再整備も中途半端な始末で川崎市はどうして同じことができないのかと常々不満を感じており、単純に芝生とカフェを作れば勝手に市民との賑わいが形成されるかといえ、もはやそうではないと思う。	新川崎・創造のもりの機能更新は、次の 100 年を見据えた量子技術等の最先端技術の研究開発拠点の形成を目指すものであり、その中で、施設の整備において現在のふるさと公園の魅力等を活かしつつ、公園の敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成するものです。 ご意見にあるような大型遊具を整備した大型公園を整備し、来訪者を増やし収益化、イメージアップを図るものではありません。	D
---	--	---	---

(4) 導入機能に関すること (123件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	近隣に飲食店や店舗が非常に少ないため、施設利用者、近隣住民の利便性の観点からカフェ、レストラン、コンビニエンスストア等の商業機能の導入・充実を希望する。 (同趣旨他31件)	新川崎・創造のもりのエントランスにふさわしい、地域に開かれた賑わいと憩いの空間を形成するため、低層部へカフェやレストラン、売店を整備し、就業者だけでなく、来訪者、地域住民の利便性の向上に取り組んでまいります。	B
2	新川崎・創造のもりは、JR 新川崎駅や鹿島田駅から遠いことから、新川崎駅南側への新たな改札口の設置を希望する。併せて新川崎駅と創造のもりを結ぶこ線橋を新設していただき、創造のもりへのアクセス改善、地域の利便性向上を希望する。 (同趣旨他26件)	JR 新川崎駅利用者の更なる安全性の確保や利便性の向上を図るため、駅南側への改札口の新設や駅施設の改良に向けては、鉄道事業者に対してこれまでも継続して要望しているところではございますが、新川崎・創造のもりの機能更新に向けて、引き続き要望するとともに、シェアモビリティの導入等、周辺駅からの新川崎・創造のもりへの交通アクセスの改善に向けてソフト対策も含めて検討してまいります。	D
3	JR 新川崎駅への湘南新宿ラインの快速の停車、相鉄線の停車、グリーンラインの延伸等について、鉄道事業者等と進めていただき、周辺エリアからの一層のアクセス向上を希望する。 特に、慶應大学の日吉キャンパスや、湘南藤沢キャンパスと直結することによる往来が活発化することが期待される。 (同趣旨他8件)		D
4	地域の子どもたちが最先端の科学技術・研究開発に興味を持ってくれる意義深い取組だと思う。小中高生の人材育成について期待したい。 (同趣旨他5件)	新たな施設においては、近隣の学校との連携による、子どもたちが科学技術への夢を育む取組の充実や、創造のもりでしか体験できない学びの機会について提供してまいります。	B

5	シェアモビリティの導入や周辺企業との送迎バスの共同運行などのアクセス改善や日差しや雨風を防ぐ道路整備等、アクセス環境の改善を希望する。 (同趣旨他2件)	企業等の立地促進や、外部からの来訪障壁の低減、交流促進を図るため、創造のもりへの交通アクセスのさらなる向上は重要な課題であると認識しており、周辺駅からの日常的なアクセス改善に向けて、シェアモビリティの導入や、立地企業等と連携した自動運転移動サービスの導入等について検討してまいります。	B
6	川崎駅方面からのアクセスも良いとはいえないので、周辺の道路整備を含めた移動手段の検討をお願いしたい。	いただいた御意見を参考に、シェアモビリティの導入等交通アクセスの改善に向けて検討してまいります。	C
7	国内外から高度人材を呼び込むには、羽田空港とのアクセスが不便である。国際カンファレンス等の誘致も視野に入れ、空港との直通バスが求められる。 (同趣旨他1件)	羽田空港からの直通バスについては、潜在的な需要や実現可能性を精査した上で、検討してまいります。	D
8	他の拠点にない豊富な最新の研究設備が導入されるとよい。	大学や大企業、スタートアップなどの多様な主体が集い、連携しやすい、多様な研究ニーズに対応可能な柔軟性のある研究環境を構築してまいります。	C
9	少量生産ができるようなレンタル製造スペースがあるとスタートアップや中小企業には良いと思う。	入居企業だけでなく外部の中小企業・スタートアップ、学生など誰もが気軽に試作・製作が可能な、デジタル工作機械等を備えたオープンファクトリーを整備してまいります。	C
10	ラウンジやコミュニケーションスペース、カンファレンススペースの設置など、オープンイノベーションを活性化する交流・コミュニティ機能の充実、イノベーションの促進に不可欠と考える。高度人材を惹きつける魅力ある環境の整備については是非推進していただきたい。	施設に入居する企業・大学等に加え、外部の人材やアイデアを呼び込むため、起業を目指す若い世代の人材の支援や、支援者・パートナーとの出会いの機会を提供するためのコワーキングスペース・コラボレーションスペース等を設置し、オープンイノベーションを活性化する仕掛けづくりを行ってまいります。	B

11	せっかくの産官学連携の施設だと思いますので、是非日常的な交流が生まれる仕組みや場所を組み込んでいただきたい。	コミュニケーションスペースや共用スペースなど、施設内に入居者や来訪者のカジュアルな会話が生まれる場所を設け、研究者同士のコミュニケーションを促進する工夫を取り入れるとともに、非日常的な交流を創出するイベントの実施等、連携を促す仕掛けづくりを行ってまいります。	B
12	「お節介スタッフ」や「市内企業コーディネータ」は大変心強く、興味深い試みだと思う。提案されれば参画するものの、自発的に手をあげにくい方や、共創パートナーを探していても声をかけるのをためらう方も多く見受けられる。このようなマッチング活動は、むしろ多少“お節介”な支援があるほうが進みやすいと感じる。プロジェクト発足までの経緯や過程など踏まえてコンテンツ化・共有化していただけると、単なる研究技術紹介に留まらず、研究者・URAなどにとっても有益性が高い情報で、市民も身近に感じられると考える。	コワーキングスペースにコミュニケーションマネージャーを配置し、拠点内の研究者・技術者同士のマッチング、ネットワーキングの機会を提供してまいります。	C
13	インターナショナルスクールの立地誘導は、新川崎・創造のもりへの優秀な海外人材集積と、それに伴う国内人材の惹きつけによる拠点価値向上や、若い人材との交流による活性化だけにとどまらず、川崎市全体の都市イメージや魅力向上にも波及する効果が期待できるので、ぜひ良質なインターナショナルスクールの川崎市内への立地を実現させてほしい。 (同趣旨他1件)	海外からの研究者を誘引し、多様な人材、高度人材の集積を図るとともに、研究者・起業家の予備軍となる若い人材が集い、施設の活用や研究者・技術者との交流を行うなど、拠点の価値を高め、活気を生み出すための仕掛けをとして、周辺エリアを含めた市内へのインターナショナルスクールの立地誘導や近隣のインターナショナルスクールとの連携について検討してまいります。	B

14	近隣住民も気軽に利用できる憩いの場・交流の場になることを期待している。 (同趣旨他2件)	機能更新においては、隣接するさいわいふるさと公園と一体性がある緑豊かな憩いの空間形成と、カフェ・レストランなど商業機能の導入による賑わいを生み出す、地域に開かれた拠点づくりを目指してまいります。	B
15	新川崎エリアは滞在機能が弱いと感じていたもので、滞在機能の導入は素晴らしいアイデア。研究には短期滞在も長期滞在も想定されるので、多様なタイプの部屋を確保するのがよいと思う。研究者は徹夜で研究することもある。 (同趣旨他2件)	国内外から優れた人材を誘引するためには、研究と生活に快適に対応できる滞在環境の整備が必要であると考えています。利用者のニーズを把握しながら、短期から中期の滞在に対応した滞在機能を整備してまいります。	B
16	イノベーションの拠点に相応しいように、国際会議等なども開催できるように周辺の宿泊施設（ホテル）機能の強化をしていただきたい。	研究プロジェクトや会議、学会等に参加する研究者・技術者の数日間の宿泊利用等に対応した短期滞在スペースの導入についても検討してまいります。	C
17	大学や企業、行政が主体となる拠点整備のなかで、周辺住民や他の地域コミュニティの相互理解と協力をどのように得るかも重要な課題である。多様な働き方に対して、市内で快適に生活できるよう柔軟な誘導策を講じ地域コミュニティへの導入コストを下げることは、労働環境の向上だけではなく、地域経済やコミュニティへの好循環をもたらせるのではないか。例えば、拠点内に不動産関連のテナントを入居させる、あるいはサービスアパートメントなどの居住施設を整備、英語対応スタッフの常駐化や地元自治会との関係強化など、様々なアプローチが考えられると思う。	国内外から優れた人材を誘引するためには、研究者とその家族が研究と生活に快適に対応できるための滞在環境を整備することが必要であると考えています。 特に海外の研究者を念頭に、世帯用の中期滞在用の居室の整備や生活のサポート環境についても検討してまいります。	C

18	「量子」にあまりピンとこない人が多いと思うので、楽しく体験できたり学べる施設をもうけ、市民に身近に感じてもらえるような仕掛けをお願いしたい。 (同趣旨他 1 件)	「科学とあそぶ幸せな一日」や「Kawasaki Quantum Summer Camp」等の更なる充実を図るとともに、研究成果を来訪者に分かりやすく紹介する機能など、多世代の方が体験し、学ぶことができる仕掛けの導入やイベント等の開催を検討してまいります。	B
19	国内外の高度人材に対して子女の教育環境として望むことをヒアリングし、市立新小倉小学校等の近隣の学校の施設・設備やカリキュラム、学級編成などに反映して頂くことをお願いします。	「科学とあそぶ幸せな一日」や「Kawasaki Quantum Summer Camp」の開催など、これまでも子どもたちが科学技術を学ぶ機会を定期的に提供してまいりましたが、機能更新を通じて、立地企業・大学や、新小倉小学校等の近隣の学校との連携により、こうした取組を強化し、年間を通じた、この場所でしかできない学びの機会の提供を検討してまいります。	D
20	今後中高生が増えていくので、科学に関する本を集めたミニ図書スペースや自習室が整備されるとより活用されるのではないかな。	中高生や大学生など若い世代が集まり、最先端の科学技術の情報に触れ、学べる機能や、デジタル工作機械等を活用した試作を後押しする機能、仕掛け等について検討してまいります。	C
21	住民に対して最先端技術が身近にあることを実感できる施策や機会が一層増えることを願っている。	最先端の科学技術が身近に感じられるイベントとして、これまでも定期的に開催している「科学とあそぶ幸せな一日」のような科学体験教室は、創造のもりでしか体験できない貴重なコンテンツであり、こうした最先端の科学技術に触れる機会を充実させていくとともに、建物の配置や動線の工夫等により、研究施設の一部スペースは外部に見えるような仕掛けについても検討してまいります。	B
22	子どもたちの STEM 教育に寄与する拠点になると嬉しい。 (同趣旨他 2 件)	機能更新を通じて、子どもたちが最先端の科学技術に触れ、学び、体験する機会を充実させることにより、科学技術分野の発展をリードする次世代人材育成の取組を進めてまいります。	C

23	慶應義塾大学などの研究機関との産学官連携により、量子技術やAI・データサイエンス分野の教育プログラムが強化され、次世代の人材が育成されるとともに、地元高校・大学生向けのハッカソンやインターンシップ機会を提供することで、新たな地域文化の創出が期待される。	機能更新を通じて、市内の高校生や大学生を対象とした量子人材育成プログラムや研究室見学等の取組について強化・充実化してまいります。 また、新たな拠点においては、高校生・大学生世代を念頭に、若い世代が集まり、起業に向けた活動やインターンシップの機会の提供、デジタル工作機械等を活用した試作を後押しする機能等の仕掛けについても検討してまいります。	C
24	新川崎を起点として新技術を活用したテストマーケティングシティとなることを期待。 (同趣旨他1件)	新川崎・創造のもりを中核とする量子イノベーションパークを実現するため、市内の地域課題の解決に向けた実証フィールドの提供等について取り組んでまいります。また、機能更新においては、施設における研究成果の活用や、実証フィールドとして活用できるような開放的な空間設計についても工夫してまいります。	C
25	子どもが安心して遊べる広場をつくってほしい。	さいわいふるさと公園との一体的な緑豊かな空間の形成など、地域に開かれた機能の導入により、地域住民が気軽に利用・来訪できるエリアの形成を目指してまいります。	D
26	新川崎地区は区民が移動しやすい場所に位置しているため、災害発生時における避難場所としての整備を進めてほしい。 (同趣旨他1件)	高度な研究開発機能に加え、滞在機能やアメニティ機能を備え、地域に開かれた拠点を整備することを踏まえ、入居者や来訪者の安全・安心に配慮した防災計画や施設計画について検討してまいります。 なお、避難場所については、創造のもりが研究開発施設であることから、緊急時の安全性やセキュリティに配慮が必要であり、不特定多数の自由な出入りが難しいことから、災害時には、近接する日吉小学校へ誘導することとなっております。	D

27	個人的には有事に役立つ研究もしてほしい。臭いの出ない清潔な簡易トイレ、再生飲料水、クリーンエネルギー、などを備えた大規模な避難場所としての施設。	新たな施設においては、量子技術をはじめとして、半導体や AI などの最先端コンピューティング技術の集積拠点を目指しています。将来、量子コンピューティング技術はエネルギー分野や創薬、素材開発など幅広い分野への活用が期待されています。	D
28	一般的に研究施設に対しては閉鎖的なイメージがあるが、オープンファクトリーやコワーキングスペースが併設され、普段触れることのない科学技術の学習や利用者の交流促進が期待されるなど、多様な機能とその可能性に魅力を感じている。	大学や企業、スタートアップなどの多様な主体が集い、様々な研究ニーズに対応できる、研究開発を加速する良好な研究環境を整備するとともに、外部の人材やアイデアを呼び込むため、コワーキングスペースやオープンファクトリーの整備についても推進してまいります。	B
29	集客がなければ長期稼働は難しい。モノ、サービスがシェアできる空間が必要。特に、広く講義やイベント発表のできる、劇場（シアターホール）が必要。付近の幸区市民館は 2030 年には築 50 年を迎え老朽化が進む。市民活動の中心となる場所に必要になることは明白。人の流入には必要不可欠だと考える。	本計画では、新たな施設において、大規模な講演会やイベント発表等に対応可能な約 1,200 平方メートルの会議室を想定しております。	D
30	施設に開放エリアを作り、先端技術などを展示説明するショーケースや、展示会ができるスペースなどがあると良い。研究者、起業家だけがアクセスできる閉じられた施設だけでなく、市民も立ち寄って新しい技術に触れあえる開放的な場所を作してほしい。 (同趣旨他 3 件)	施設の配置や仕様、動線の工夫等により、セキュリティや経済安全保障に配慮しながら、一部スペースは見学者等に技術を見せる工夫を図った設え等について検討してまいります。また、コワーキングスペース等において、研究成果を発信する展示スペースの設置等についても検討してまいります。	B

31	会員企業が共有して自然に交流できるワークスペースや、企業同士が交流できる企画などにより、方向性が一致する会員企業同士で連携できる機能があると、参画する価値が高まる。	入居者や来訪者が自由に交流するコミュニケーションスペースやオープンスペースを、動線の結節点となる施設の低層部や各フロアに配置するなど、日常的な交流や異分野とのコラボレーションを促進します。また、コワーキングスペースにおいても、若い研究者や技術者が自然発生的に自分のアイデアを発表し、組織の垣根を越えて集まった仲間とディスカッションできる場所を提供してまいります。	B
32	COI-NEXT においては、プロジェクトに参画する女性研究者の比率が評価対象となっていたと思う。したがって、女性が働きやすい環境づくりは社会的需要を満たすだけでなく、拠点そのものの評価を高める要素でもある。一般論として、育児が女性のキャリア形成を阻害しやすいといわれているため、保育園や小学校、小児科・婦人科など育児支援施設や制度の拡充をぜひ検討いただきたい。	国内外から最先端の研究開発をリードする高度人材を誘致するため、良好な研究環境や滞在環境を整備するとともに、近隣施設の利用状況やニーズ等を踏まえながら、生活環境の充実に向けて必要なアメニティ機能等を民間事業者とともに検討してまいります。	D
33	施設内にも乳幼児親子や小学生～高校生がひとりでも気軽に利用できるフリースペースがあるとよい。	施設利用者のニーズを踏まえ、創造のもりに必要となる機能について、民間事業者と協議しながら検討してまいります。	D
34	緑地と一体化したオープンなアクセスを提供する構想に大変魅力を感じる。	地域に開かれた、さいわいふるさと公園との一体的な緑地の配置や、自然との調和に配慮した緑地環境の構築、回遊性の向上に向けた動線の整備について検討してまいります。	B
35	オープンイノベーション戦略と経済安全保障を意識したクローズ戦略とを組み合わせた、オープン・クローズ戦略とあわせて非常にバランスよく研究開発に必要な機能を備えているように思われる。	量子・AI・半導体技術等の先端コンピューティング技術は、経済安全保障上の重要性が高いことから、オープン・クローズ戦略を効果的に活用することが、研究開発を行う上で必要となります。具体的なセキュリティ機能については、企業、大学等の意見を踏まえ、民間事業者と協議しながら検討してまいります。	B

36	宿泊施設や会議・イベントスペースは、創造のもり入居企業や機関の利用にあたり優遇してほしい（金額、予約優先など）。	滞在機能や会議室の詳細な運営方法については、民間事業者とともに今後検討してまいります。	D
37	これまでの環境技術分野の実績に量子技術を活用することで、エネルギー最適化シミュレーションによる CO₂削減やグリーンテクノロジーの研究促進など、環境負荷の少ない先端技術の研究・実装が進むことが期待される。しかし、量子技術や AI の開発には膨大なエネルギーが必要とされるため、再生可能エネルギーの活用や「脱炭素」「環境負荷低減」を意識した研究拠点の形成が重要。	量子コンピューターは古典コンピューターに比べてエネルギー効率が高く、環境負荷の低減が期待できることから、量子コンピューティング技術の実用化に向けて関係者と連携しながら取り組んでまいります。 また、機能更新においては、サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）に貢献する研究開発拠点を目指すことから、施設計画においても、GX の視点を導入し、環境負荷の少ない施設の整備を検討してまいります。	C

(5) 施設計画・運営方針関すること (30件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	新規企業等の誘致に伴い、高度な専門知識を持つ人材や研究者が流入することで、質の高い雇用機会が創出されます。また、川崎市内の大学や教育機関との連携により、次世代の人材育成や産業基盤の強化が図られることが期待される。 (同趣旨他 1 件)	機能更新を通じて、創造のもりに国内外から最先端技術の研究開発を行う企業と高度人材を誘致し、新たな雇用を創出するとともに、創造のもりに集積する企業・大学等と市内学校等との連携による次世代人材の育成の取組を強化してまいります。	B
2	新設計画の施設の必要性や使用見込みの検討において、現実の実態を入念に調査して反映しているか疑問である。市の説明資料では KBIC、NANOBIC、AIRBIC の近隣施設の稼働率はほぼ 100%とされているが、入居している部分を対象とした稼働率で、実態としては多くの利用率の低い会議室があるのではないかと懸念される。そのため、工事期間中に K2 キャンパスの研究室を近接施設に移動することが可能と考えているのではないかと懸念される。利用率の低い無機質で空疎な施設の存在は、地域の不活性化や衰退につながることを懸念される。	KBIC 本館、NANOBIC、AIRBIC の入居率はほぼ 100%となっており、また、これらの施設の会議室についても多くの方に利用されているため、会議室を K2 タウンキャンパスの研究室へ転用する予定ではございません。 なお、K2 タウンキャンパスの移転先は、既存施設 (KBIC 本館、NANOBIC、AIRBIC) に入居する企業等が入居期限を迎えて退去した後の居室と、KBIC 敷地内において一時的な受け皿としての機能を果たす小規模プレハブラボを想定しています。	D
3	市内には、建物や設備・什器の保守管理、衛生管理、修繕、植栽維持管理に長けた企業が多数存在すると思われます。施設計画等においては、企業育成の観点からも、こうした市内企業を積極的に活用する方針を検討いただきたい。 (同趣旨他 1 件)	新たな施設は、民間事業者により整備・運営される施設となりますので、民間事業者と連携しながら施設の管理・運営方針等についても協議・検討してまいります。 また、施設計画においては、新川崎・創造のもりや市内の企業、大学等の技術、研究開発の成果の活用・導入についても検討してまいります。	D
4	入り口側の大きな 2 本のシンボルツリーや道沿いの桜は綺麗なので、残してほしい。 (同趣旨他 1 件)	民間事業者の提案をもとに、地域に開かれた開放的な憩いの緑地空間の形成について検討してまいります。	D

5	本計画が実現することで、量子コンピューターや AI 技術を活用するスタートアップ企業、研究機関、大学研究室などの誘致により、地域経済が活性化するとともに、国内外の企業や投資家、VC 等の関心を引き、新たな投資が流入することが期待される。	新川崎・創造のもりに、量子・AI・半導体等の最先端コンピューティング分野の企業、大学、研究機関等を国内外から誘致するとともに、創造のもりに立地する企業等の成長や研究成果の社会実装を加速させるため、ベンチャーキャピタル等からの投資を促進する仕掛けづくりについても検討してまいります。	B
6	新川崎・創造のもりの強みである量子技術やスタートアップ支援機能を、市内の他のイノベーション拠点と連携させ、エコシステムを形成するという視点到賛同する。特に、既存施設の指定管理者との連携や、効果的なマネジメント拠点の設置による適切な運営体制の確立が、今後の成功の鍵となると考える。	新川崎・創造のもりの持つ量子技術やスタートアップの集積・輩出機能と市内のイノベーション拠点との連携によるエコシステム形成の視点を踏まえ、K B I C等の既存施設の指定管理者との連携やマネジメント拠点の設置等、適切な運営体制を検討してまいります。	B
7	新たな施設がラボ機能だけでなく、アメニティ機能や商業機能も含む複合施設となる点については、多様な関係者が集まりやすくなり、イノベーション創出の促進につながることを期待される。そのためにも、様々な企業体との会話等により、新川崎・創造のもり全体の視点を持って運営方針を検討するという方針は重要だと考える。	民間事業者により新たに整備・運営される施設は、企業・大学等が入居するラボ機能が中心となるものの、アメニティ機能、商業機能も含まれる複合的な施設となることから、本市の十分な関与のもと、新川崎・創造のもり全体の総括的な視野を有した運営方針を検討してまいります。	B
8	有望な入居者が集まる要因は「立地（利便性）」「費用（賃料）」そして、「キーテナントの存在」である。機能更新後の施設に有望な入居者を集めるためには、キーテナントをあらかじめ呼び込む必要があると思う。	国内外からトップレベルの企業や研究者・技術者を創造のもりに集積させるため、民間事業者とともに魅力ある大型プロジェクトや中核企業等の立地誘導に取り組んでまいります。	C
9	新たなまちの拠点として、イベントの開催などを通じソフト面でも地域に開かれた利用を期待したい。	民間事業者やK B I Cと連携し、就業者や来街者、周辺住民の利用を高める公共空間の活用やイベントスペースを使ったイベント開催等、ソフト面でも地域に開かれた運営を行ってまいります。	B

10	施設を利用する人、公園を利用する地域住民や管理活動をする人、どちらかの一方通行ではなくお互いに関われるような仕組みや空間づくりを期待している。	さいわいふるさと公園との一体的な緑地の配置や回遊性の向上に向けた動線の整備を行うとともに、施設利用者や公園利用者が相互に関われるような仕掛けづくりやイベントの実施等についても検討してまいります。	C
11	どんな世代の人でも気兼ねなく利用しやすい施設・空間であってほしい。	創造のもりに立地する企業、大学、研究機関だけでなく、地元住民や大学生・高校生、子どもたちなど全ての世代の方々が様々な使い方、関わり方ができるような賑わいと活気のある施設や空間形成を目指し、民間事業者と連携しながら整備計画や運営方針等を検討してまいります。	C
12	2025 年問題として、AI 利活用に伴う電力消費量の増加が大きな課題となっている。量子コンピューターは環境負荷低減に寄与するが、現時点では大型 HPC の導入が不可欠な場面も続く見通しであり。川崎市は水素燃料拠点の整備なども通じて GX に取り組んでおられるので、具体的にどの程度 CO2 排出を削減しながら先端技術を実装するのか、ロードマップを提示することで一層の説得力が生まれると考える。	量子コンピューターは古典コンピューターに比べてエネルギー効率が高く、環境負荷の低減が期待できることから、量子コンピューティング技術の実用化に向けて関係者と連携しながら取り組んでまいります。	D
13	研究の重要な拠点として、さまざまなコラボレーションが起きると良いと思う。そのためには、コラボレーションが促進されるように、滞在時間も楽しくなるような広く開かれた空間が必要と感じている。休めるような広場も重要であり、カフェや買い物ができる空間も必須と思う。	多様な世代や属性の方が創造のもりを利用できるよう開かれた緑地空間を形成するとともに、建物の低層部には就業者がリラックスでき、地域住民も立ち寄りたくなるカフェ・レストランを配置するなど、誰もが気軽に利用し交流できる開かれた拠点形成を目指してまいります。	B
14	子どもの多い地域でもあり、広場は残していただきたい。	機能更新においては、さいわいふるさと公園の広場などはそのまま残しながら、公園の魅力等を活かしつつ、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成してまいります。	B

15	量子イノベーションパーク構想により国際化が進むと想定されるが、国際的な場所として受け入れるためには、英語表記等による駅からまでの明確に誘導できる仕組みや、歩道の交通整理などが必要と考える。	国内外の最先端企業・高度人材を誘致するため、多言語・ピクトグラム等を用いた案内図の設置や、その視認性を確保することにより、国籍や年齢、文化、身体状況など個性や違いに関わらず、だれもが利用しやすいユニバーサルデザインの視点に配慮した整備を行ってまいります。	C
16	歩いているだけで楽しい場所ができれば嬉しい。	創造のものの回遊性を高める、地域に開かれた、居心地の良いウォークアブルな空間設計とオープンスペースの整備について検討してまいります。	B
17	壁面緑化や、広場、地域との共存共栄研究施設の整備はとても素晴らしい事だと感じた。	創造のものの機能更新においては、環境性能に配慮した施設整備と地域に開かれた賑わいと憩いの空間の形成に取り組んでまいります。	B
18	線路側の歩道は人通りも少なく草木も多いため、昼間でも通行に不安を感じるレベルなので、改善していただければと思う。	創造のもりエリア全体や駅からの動線において、誰もが安全にアクセスしやすく、利用しやすい環境の整備について検討してまいります。	C
19	最大 45 メートルの高さになるとのことだが、大体マンションの何階くらいの高さになり、実際に日当たりの影響がどのくらいになるのか知りたい。場合によっては高さの制限を求める。	新川崎地区地区計画において、当地区で建築可能な建物の高さが最大 45mまでに制限されております。 実際に建築される建物の高さは地区計画に基づく民間事業者の提案内容により異なりますが、周辺の集合住宅等への日影や眺望等に配慮した施設計画となるよう、民間事業者と連携しながら検討してまいります。	D

20	高度人材を惹きつけ国内外から優れた人材を誘引するためには、また拠点の魅力を向上させる賑わいと憩いの場とするには、施設計画にあたっては建築デザインも魅力あるものにすることが重要と考える。川崎市民が誇りを持てるような素敵な建物となるように外観の意匠設計にも力点を置いていただくことをお願いしたい。	研究開発施設として最先端の研究活動が行えるラボ環境を整備するとともに、新川崎都市景観形成地区の基準に則った外観デザインについて民間事業者と連携しながら検討してまいります。	D
21	幸区は緑被率が低いので、地区の緑の保全をすすめていただきたい。	新川崎地区地区計画で定められている緑化率を満たしていくとともに、緑化率以上に緑を感じられる緑視率の向上に向けた緑の配置等の工夫について検討してまいります。	D
22	パースの表現が美しく、完成後の施設利用の様子がイメージしやすい。	新川崎・創造のもりの機能更新について、市民に分かりやすくそのイメージを持っていただくため、文字情報だけでなくパース等のイラストを用いながら引き続き情報発信していきます。	B
23	花や植物をたくさん植えて欲しい。	創造のもりの機能更新においては、ふるさと公園と緑と調和した、自然との触れ合いが楽しめる一体的な緑地空間の形成を目指してまいります。	B
24	近隣の工事車両と思われる車両が線路側の道路に駐停車車しており、交互交通を行う状況となっている。駐車車両の数も多く、さらに周辺企業の通勤バスの往来もあるため、かなり危険な状況。かわさき新産業創造センターの来訪車が入構する際にも障害になっている。こちらは、定期的な取り締まりもしくは、工事発注者の待機場所確保・入構時間変更などの対策案が考えられる。	警察や関係機関との係を図りながら、路上駐車違反の低減に向けて検討してまいります。	D

25	学問エリア、商業エリア、自然エリアの複合機能を備えた大規模な施設になってもらいたい。	創造のもりの機能更新を通じて、研究機能をはじめ、商業機能、滞在機能等を導入するとともに、さいわいふるさと公園の自然と調和した一体的な緑地を形成するなど、多様な方々を対象として、様々な関わり方、使われ方、楽しみ方等の接点を持てる魅力的で活気のある複合的な拠点を目指してまいります。	C
26	オープンファクトリーはあくまでイメージ図であり、実際にあのようなガラス張りの施設が建設されるわけではないと理解しているが、現実これに近い設計にされた場合、夏季や冬季の空調費用の増加、日光におけるサンプルや資料の損傷、機密保持のためのカーテン設置などで景観が損なわれる可能性もある。こうした課題への配慮も設計段階で検討してほしい。	記載のとおり、パースは具体的な機能がイメージしやすいように、居室の中が見えるような形で描いております。 施設計画においては、景観に配慮しながら、良好な研究環境を整備するとともに、G Xの視点を導入し、環境負荷の少ない施設となるよう、先進的な環境技術の導入や屋上緑化、壁面緑化等について検討してまいります。	D
27	49,000 m ² の巨大な施設が計画通りに利用された場合は、周辺道路や地域住民生活への影響が懸念される。研究施設他への物品の搬入は、施設東側に線路との間の道路において、交通量の増加だけでなく、現在でも頻繁に発生しているトラック等の長時間駐車が増加が憂慮される。また、2,000～5,000 m ² という膨大な部屋数と推定される滞在施設には、国内外から不特定多数の研究者が宿泊するため、地域住民の生活への多様な影響が危惧される。	本施設は主に研究開発施設であることから、周辺道路へ影響を及ぼすほどの大幅な交通量の増加は発生しない見込みです。なお、K B I CやK 2 タウンキャンパス等の既存の施設の就業者の大半は公共交通機関で通勤している状況です。 また、国内外から集積を目指す高度人材の滞在機能についても、地域と調和した環境づくりに向けて、滞在時のサポート等について検討してまいります。	D

(6) その他 (6 件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	新川崎が技術的に優れていることを初めて知った。	本市のなかで、新川崎地区には研究開発に取り組む企業が多数集積しており、これらの企業等の研究成果から新たな技術や産業の種が生み出されております。こうした成果や活動がこれまで以上に市民の皆様に広く認知されるよう、積極的な情報発信に取り組んでまいります。	E
2	県内で川崎市は非常に活発に活動している地域と認識している。		E
3	パッケージデザインの仕事に携わっているので、商業機能として出店されたお店などで地元になじまわれることができたかと考えている。幸区さらには川崎市の発展に期待している。このような意見を言える場をもうけていただけてありがたい。	新川崎・創造のもりの機能更新については、商業機能も新たに導入いたしますので、市内で事業を営む方にも様々な形で関わっていただければと考えております。	E
4	建物の老朽度合のことを考えると、この拠点の更新よりも先に老朽化した小学校の改築や体育館への冷房設備の設置をするべきではないのか。イノベーションよりも前に安全を保障するためにお金を使うべきではないのか。熱中症対策をしろと言っている中で設置がされていないのはおかしくないのか。	学校施設の改修等については、今回の意見募集の趣旨範囲とは異なります。	E
5	現状の貿易赤字を、早期に貿易黒字転換が必要。具体的な輸出増加の案件モデルを設定し早期の輸出増加計画を立案し、お手数ですが追記してほしい。例えば、水素や水素関連技術の輸出や、半導体関連技術の輸出の計画である。	輸出増加の計画については、今回の意見募集の趣旨範囲とは異なります。	E

6	以前、新川崎に関するパブリックコメントにおいては、利害関係者のコメントばかりだとして委員会で指摘されていた。私は直接の利害関係者ではないが、議事録を拝見した際、その対応にやや疑問を感じた。確かに同時期に行われた他のパブリックコメントの応募件数と比較すれば、数倍以上のコメントがあったなど当然そのような受け止めになる面はあると思う。しかし、パブリックコメントの性質上、意見者が偏ることも一定程度想定しているはずである。そもそも、パブリックコメントによって大幅な計画方針転換がなされた例はあったのだろうか。事務局の業務負担を考慮されているのであれば理解できますが、意見者の素性や利害関係を疑い、意見を排除したり議論されなかったりするよりも、有効そうな意見を拾い上げて議論される方が、発展性があると思う。	新川崎・創造のもりの機能更新については、直接の利害関係者だけでなく、広く市民の皆様に周知し、パブリックコメントにおいても様々な立場からの御意見をいただき、計画の推進の参考とさせていただきたいと考えております。	E
---	--	---	---